

令和6年8月6日（火曜日）

気候変動考慮し対策を 足立敏之議員が被災地視察

秋田・山形豪雨

7月24日から26日にかけて降り続いた大雨により被災した山形、秋田両県の状況を視察した自民党の足立敏之参院議員が建設専門紙各社の取材に応じた。気候変動の影響で「今まで大雨が比較的少なかった地域でも甚大な被害があった」と指摘。河川整備計画の見直しや信頼性の高い道路整備で事前の防災対策を強化するとともに、今回の被害経験を踏まえ「道路の側溝など排水施設の基準も見直さないといけないかもしれない」とも話した。



視察する足立議員（右から3人目）
写真はいずれも足立敏之事務所提供

同30日に両県の建設業協「集団移転を希望する住民も関係者などが同行した上で被災現場を回った。山形県内では過去最大の降雨を記録した最上川中下流域の酒田市や戸沢村、鮭川村、新庄市などを視察。谷全体に広がる集落や農地が土砂や流木で浸水した地域や、過去にないほどの深い浸水となった地域を訪れた。集落によっては



日本海沿岸東北自動車道の陥没箇所

旧とともに今後の住まい方も含めて考える必要がある」と指摘。気候変動を踏まえた河川整備基本方針・河川整備計画の見直しで「今回の洪水を踏まえ抜本的な対策をどう講じるか、国土交通省にはしっかりと検討してもらいたい」とした。鳥海ダムなど貯留施設の着実な整備も求めている。

山形県遊佐町では日本海沿岸東北自動車道の陥没現場を視察。路面排水では吐き切れないほどの雨で排水ますの末端から洗掘されたような被害を確認し、排水施設も含めた対策検討の必要性を強調した。住宅などの裏山で土砂災害が多く発生したが人的被害を出さなかった地域も訪れ、早期の避難指示の重要性も再確認。道路崩落で広域の迂回（うかい）を余儀なくされている区間については「あらかじめ信頼性の高い道路整備を進める必要がある」と話した。